

PF-UA 第1回拡大運営委員会 議事録

日時：2012年6月5日(火)午後1時30分～4時00分

場所：KEK 4号館2階輪講室1

出席者：朝倉清高、雨宮慶幸、植草秀裕、枝元一之、奥部真樹、尾嶋正治、木村正雄、栗栖源嗣、腰原伸也、岸本俊二(小林寿夫 UG 代表代理)、佐々木聡、佐藤衛、篠原佑也、鈴木昭夫、高橋敏男、高橋博樹、高橋嘉夫、田中信忠、田淵雅夫、手塚泰久、中川敦史、長嶋泰之、沼子千弥、中尾裕則(野田幸男 UG 代表代理)、藤森淳、三木邦夫、百生敦、山口博隆、足立伸一、伊藤健二、河田洋、村上洋一

報告事項

1. 会長挨拶新と幹事紹介
2. 運営委員自己紹介
3. UG 代表自己紹介

4. PF-UA PF 次世代光源寄付のお願いについて

佐藤会長より PF 次世代光源寄付のお願いについて説明があった。PF-UA 設立に伴い会費無料化を行ったが、PF-UA の運営や研究会等の活動資金として資金を確保するために、PF 次世代光源寄付として、PF 懇談会の会員だった方には会費の納入を続けていただき、新たに会員になられた方は銀行振り込みという形で支援をお願いすることとする。この点に関して運営員会・総会・ホームページで呼びかける。

5. PF-UA 賛助会員について

佐藤会長より PF-UA 賛助会員について説明があった。PF-UA の運営や研究会等の活動を支援して下さる民間企業の方々に賛助会員となっていただき、PF-UA の運営資金を援助していただくことを呼びかける。(年間 15 万円/1 口)

6. 若手会の立ち上げについて

朝倉幹事より、若手会の立ち上げについて説明があった。世話人として、中尾・雨宮・篠原委員が担当し、活動等について検討をはじめた。

7. 幹事報告

- (1) 小委員会メンバー(案)の確定 (朝倉庶務幹事)
- (2) アンケートの実施 (朝倉庶務幹事)
- (3) PF シンポジウムの実行委員会 (井田・千田行事幹事：朝倉庶務幹事代行)
- (4) PF-UA との相互協力における覚書について (佐藤会長)
- (5) PF-UA ユーザー登録について：「KEK 共同利用支援システム (KRS) ヘユーザー登録した放射光を利用する共同利用者」(朝倉幹事)
- (6) その他

8. PF 施設報告 (村上施設長・伊藤主幹)

PFの現状について、村上施設長から説明があった。機構長が説明に使ったKEKのロードマップにERL計画が明示され、KEK内でもERL計画が大きな位置づけになってきた。機構長が文科省に対して説明に行くときに、放射光についても強く要求できるよう、将来計画に関するPF-UAの意見を集約しておいた方がいい。今後もPFの運営にPF-UAの助力をお願いしたい。その他以下の説明があった。

- (1) 運営費交付金（PFプロジェクト経費）削減と運転時間・員等旅費の削減について
- (2) ERL将来計画と放射光将来計画特別委員会について
- (3) ユーザーグループ運営ステーションと大学運営ステーションについて
- (4) 現在のPFビームライン・アップグレード計画について
- (5) 優先利用課題について
- (6) 現在のPFビームライン・アップグレード計画について

協議事項

1. 小委員会の承認

報告で提示されたPF-UAの小委員会が承認された。

2. PF-UAの会則案について

佐藤会長より、PF-UA会則案について説明があった。（HP参照）

その中で、(a)会員名簿の取り扱い、(b)入会に関してどのようにするのか（Users officeのユーザー登録との連動はできない）などについて議論された。これを継続審議事項とした

3. 教育に関するビームタイムについて

近藤委員長の教育小委員会にて検討を行うこととした。

4. PFとPF-UAとの相互協力における覚書について

PF懇談会からPF-UAに移行するに当たり、PFの施設との協力項目に関して覚え書きを作成することとした。

5. 運営費交付金（PFプロジェクト経費）削減と運転時間・員等旅費の削減について

これらに対して、PF-UAからも要望を出してゆくこととした。

6. アンケートの実施について

村上施設長より説明のあったPFの現状を受けて、KEK将来計画に対してPF-UA会員の意見を集約するために、アンケートを実施することが検討された。アンケートの内容、実施方法、原案の担当（主として篠原委員）などが議論された。これを持ち帰りメール審議でアンケート内容を決定し、6月中に実施することとなった。

7. PFシンポジウムについて

本年度のPFシンポジウムが2013年3月15-16日で行われる。その中で、総会を行うこと、またPFシンポジウムの企業展示はPF-UAにより行われることが確認された。

8. PF-UAの広報について

引き続き、PF-NEWS で活動報告を行っていくこととした。